

アジサイ

(アジサイ(旧ユキノシタ)科)

^{しおど}鹿威しの響く日本庭園奥の最深部“ヤマアジサイの里”では、ヤマアジサイが咲いており、茶室横のガクアジサイなども咲き始めています。

2016年6月11日

通巻第285号

ハナショウブ&アジサイまつり

6/4(土)~26(日)の土日
アジサイ、ハナショウブの実演会、お茶会、お菓子の販売、植物ガイドなど

ハナショウブ (アヤメ科)

白、桃、紫、青黄などの様々な花色があり、現在花盛りです。アヤメ科には他にアヤメ、カキツバタがあり、同時期に花を付けるので見分けが付き難いことから「いずれがアヤメかカキツバタ」という慣用句があります(どちらも素晴らしく優劣付け難いという意味もあります)。なお、菖蒲湯に使われるショウブとは別の植物です。

ウチョウラン展

6/11(土)~6/16(木)

可愛い草姿で人気のあるウチョウランを展示しています。

大温室改修のため休館中

リニューアルオープン
は平成29年秋ごろです。
(予定)

ゾウコンニャク (サトイモ科)

5月に強烈な臭いの珍奇な花を咲かせましたが、現在は腕程の太さがある茎を立ち上げ、大温室にあった鉢物に取り囲まれているにも関わらず、その巨体をご覧いただけます。

ノリツギ (アジサイ科)

樹高が2~5mになり、先端がやや倒れて他の木に寄りかかるので、蔓植物のように見えます。枝の先に白色の小さな両性花を付け、苞を四枚持つ装飾花がつきます。名前の由来は和紙を漉くときに糊に利用したためです。

水琴窟と苔庭

今年茶室前に新設した水琴窟と15種類の苔を使った苔庭が目玉です。花盛りのハナショウブとヤマアジサイに気を取られて、お見落としのないよう、お楽しみください。

ザクロ (ザクロ科)

こちらは実を観賞・収穫するのではなく、花を楽しむ“花ザクロ”の一品種で、ピンク色八重咲花。

ヤマボウシ (ミズキ科)

白く花弁に見えるのは、苞葉で先がとがります。仲間のハナミズキがへこむのと対照的です。屋外展示場前には常緑ヤマボウシのホンコンエンススを植栽しており、こちらはヤマボウシより脹やかな苞をしています。

クマノミズキ(ミズキ科)

本州、四国、九州に分布していますが、名前の由来は日本で始めて見つかった三重県熊野町に因んで付けられています。新枝の先に白い花の塊が咲き始めています。

初夏の小品盆栽展

6/11(土)~6/16(木)

ヤマモミジ、カエデ、ニレケヤキ、五葉松、真柏、チリメンカツラなどの木物や風知草、ギボウシ、イタドリ、セキショウなどの涼やかな草物の小品盆栽を使った席飾りを展示しています。

